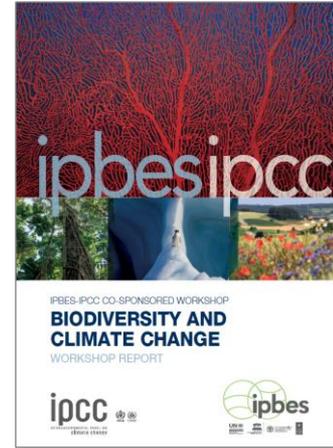


生物多様性と気候変動に関するIPBES-IPCC合同ワークショップ報告書の概要

- 「生物多様性と気候変動に関するIPBES-IPCC合同ワークショップ」の成果(2021年6月公表)※
 - 2020年12月14-17日にオンライン開催、IPBESとIPCCによる科学運営委員会が選定したIPBESとIPCCからそれぞれ25名、計50名の専門家が参加 **(日本からは計3名の専門家参加)**
- ※科学的査読を経たものではあるが、IPBES公式のレビュープロセスは経ておらず、IPBES総会の承認は得られていない



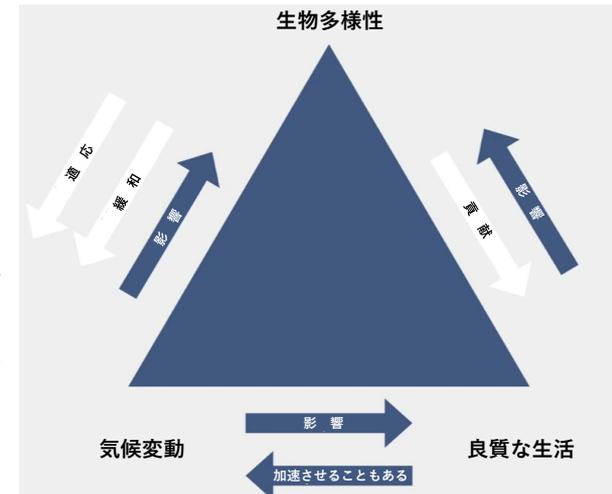
報告書(24頁, 英語)

WS
議題

1. 気候変動と生物多様性の相互関係と今後の人間社会への示唆
2. 気候変動下の生物多様性保全
3. 気候変動緩和策が生物多様性に与える影響
4. 生物多様性と気候変動適応
5. 生物多様性保全策が気候変動に与える影響
6. 生物多様性、気候と人間社会の相互作用、境界としきい値
7. 気候-生物多様性-人間社会ネクサスの対策

キー
メッセージ

- 地球上の**気候と生物多様性**の間には**複雑な相互作用**があり、人間社会に大きく影響する。これらを切り離して別々に制御できない。
- 人間活動と気候変動の生物多様性への影響**が増大、自然と自然の恵みを損なっている～水産資源の枯渇、早魃、熱波、森林火災等。
- 気候変動影響と生物多様性の損失は、現代の生態系と人間社会への**深刻な脅威**～生物の分布変化、森林炭素貯蔵の減少等。
- 気候変動緩和策**には、生物多様性に貢献するものもあれば損なうものもある～例：マングローブ保全vs. バイオ燃料作物の大規模栽培
- 生物多様性は、人や生態系が**気候変動に適応**する助けになる。生物多様性損失を防止、抑制または反転させる対策は気候変動適応に貢献する。～30-50%の陸域・海域生態系の効果的な保全
- 気候、生物多様性と人間社会を一体的なシステムとして扱う**ことが効果的な政策の鍵。ランドスケープ、都市や農山漁村地域での生物多様性保全と気候変動対策の統合が有効。
- あらゆる部門の野心的な排出削減と**自然を活用した解決策**の親和性。
- 社会生態系における**ガバナンスの革新**が、気候と生物多様性のレジリエンス(回復力)がある将来の発展経路を導く。



出典：IPBES and IPCC (2021) Scientific Outcome of the IPBES-IPCC co-sponsored workshop on biodiversity and climate change. p4